

令和2年度第1回江別市スポーツ推進審議会開催結果

1. 開催日時

令和2年8月6日（木）午後3時00分～午後4時00分
江別市教育庁舎大会議室

2. 出席者

・スポーツ推進審議会委員：10名

金内晴夫会長、花井篤子副会長、古川孝行委員、小林照美委員、浅田眞委員、
原大輔委員、山下和人委員、竹内由紀子委員、小川泰雅委員、堀内眞知子委員
(欠席：立花宏美委員)

・教育委員会事務局：7名

萬教育部長、千葉教育部次長、三浦スポーツ課長、遠藤スポーツ交流事業担当参事、
中島施設計画担当参事、桶川スポーツ係長、結城主事

3. 開催結果

(1) 委嘱状交付

所属団体の人事異動等に伴い、開会前に教育部長から新規の委員に委嘱状を交付。

(2) 開 会

委員の過半数の出席を確認し、スポーツ課長が開会を宣言。

(3) あいさつ

金内会長・教育部長からあいさつ

(4) 委員・職員紹介

(5) 報告事項

報告事項(1) 令和元年度スポーツ関係事業実施報告について

- ・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

○事務局（スポーツ係長）：

はじめに、教育委員会が行った事業について報告する。

まず、学校体育施設開放事業であるが、社会人体育団体学校開放事業は、学校運営に

支障のない範囲で、体育館及びグラウンドを市民のスポーツ団体の活動場所として提供する事業で、令和元年度は、25小中学校を132団体に開放し、利用者数は延べ13万3,527人であった。次の体育施設開放事業（学校体育館土曜開放）は、10の小学校の体育館及びグラウンドについて、土曜日の午前を地域の児童生徒のスポーツ活動場所として提供するもので、利用者数は延べ2,220人となっている。また、体育施設開放事業（学校プール開放）は、夏休み期間中、15校の小学校プールを開放し、利用者数は、延べ9,375人であった。

次に、スポーツ普及奨励事業の青少年スポーツ賞顕彰であるが、スポーツ賞は高校生以下を対象にして、全国大会で3位以上を基準としており、4個人を表彰している。スポーツ奨励賞は高校生以下で全道大会1位を基準としており、25個人、21団体を表彰している。教育委員会賞は小中学生で全道大会2位又は3位を基準としており、22個人、11団体を表彰した。次のスポーツ大会出場奨励金交付は、予選を経て全道大会規模以上の大会に出場する市民に対し、負担の軽減を図る目的で奨励金を支給するもので、国際大会では個人4人に、全国大会では個人59人と4団体に、全道大会では個人46人と5団体に、それぞれ奨励金を支給したものである。

次に、スポーツ振興に関する事業であるが、屋外体育施設管理運営事業は、はやぶさ運動広場内の少年野球場、テニスコートなどと、第二中学校に特設するスケートリンクの管理運営を江別市スポーツ振興財団に委託したものである。スポーツ大会等振興補助事業は、江別市スポーツ振興財団が実施するスポーツ大会や健康体力づくり指導相談などの事業に係る補助金で、4,334万8千円を交付している。

次に、体育団体補助金であるが、現在の江別市スポーツ協会である江別市体育協会と江別市スポーツ少年団が実施する事業に対する補助金である。

次に、地域スポーツ活動活性化促進事業であるが、学校レクリエーションや自治会などにおいて、スポーツ推進委員の指導の下、軽スポーツを行い、この普及を目的とする事業で、6件、延べ289名を対象に実施した。

2ページの全国大会等開催補助事業については、市内で開催の全国大会の開催地補助金として交付している。なお、スペシャルオリンピックスについては、コロナウイルスの影響で大会直前に中止となったが、ふるさと納税制度で集まった金額相当額を寄附者へ通知の上、交付している。

次に、スポーツ合宿誘致推進事業については、合宿誘致にかかる情報収集・PR活動を行うとともに、合宿に訪れる道外の団体に対し、空港から宿泊地・練習会場への送迎サービスの提供、道立野幌総合運動公園などの会場使用料の補助、江別市特産品の提供といった支援を行ったものである。令和元年度の実績としては、野球・バスケットボール・バレーボール・フィールドホッケー・水球など様々な競技団体が訪れ、延べ14団体、334名に対し各種支援を行った。また、それぞれ地元チームとの交流試合などを実施していただき、当市としても有意義なものとなった。

次に、パラ・スポ体験会開催支援事業は、市民の障がい者スポーツへの理解を深めるとともに、障がい者を含む全ての人々がスポーツに親しむ意識醸成を図るため、障がい者スポーツを実体験できるイベントの実行委員会に対して、補助金を交付したものである。

次に、ラグビーワールドカップ公認チームキャンプ地受入事業であるが、オーストラリアチームの受入れを行ったほか、北海道ラグビーフットボール協会による小学生対象のタグラグビーの出前授業や元オーストラリア代表からなるクラシックワラビーズによる高校生対象のラグビークリニックなどを実施したものである。

次に、スポーツ施設改修整備事業の体育施設整備更新事業であるが、4つの体育館、3つの屋外体育施設に係る修繕工事費と備品購入費となっている。令和元年度は、大麻体育館の第三体育室避難口扉改修工事や青年センターの女子シャワー混合栓交換工事などを行った。市民体育館改修整備事業は、アリーナ床改修、照明改修、コンクリートブロック塀の改修工事を行ったものである。

最後に、体育施設の指定管理事業であるが、市民体育館など屋内4体育施設は一般財団法人江別市スポーツ振興財団が、あけぼのパークゴルフ場及び森林キャンプ場についてはエコ・グリーン事業協同組合が、それぞれ指定管理者として管理運営を行ったもので、指定管理料は合わせて2億664万7千円である。

3ページから7ページにかけては、一般財団法人江別市スポーツ振興財団が行った事業である。説明した指定管理に係る事業やスポーツ大会等振興補助金に係る事業、自主事業などを行っているもので、事業内容は記載のとおりである。

各種スポーツ教室やスポーツ大会を開催したほか、健康体力づくり指導相談事業、スポーツ指導者養成事業、体育施設管理運営事業を実施している。

(質疑等 → なし)

報告事項(2) 令和元年度スポーツ施設利用状況について

- ・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

○事務局(スポーツ係長):

まず、右上に報告事項(2)追加資料と書かれた資料をご覧いただきたい。

教育委員会では、新型コロナウイルス感染症への対応として、本年2月から5月末まで、公立小中学校や社会教育施設等の臨時休校・臨時休館等を行ったところであり、このうち、スポーツ課が所管する体育施設の状況や経過について、説明する。

記載のとおり、各施設とも、北海道の緊急事態宣言に応じて、道立施設や近隣の状況を見ながら、各体育館のトレーニング室については、2月29日から休室し、3月5日からは全館臨時休館の措置を行った。4月には、学校再開に合わせ、市内4体育館を4月7日から再開したが、再開後の利用者が通常時より増加し、密集・密接の回避が困難

な状況となっていたこと、また、4月12日に発表された「北海道・札幌市緊急共同宣言」を受けて、札幌市から利用者がさらに流入することも懸念されたことから、4月14日から臨時休館することとしたものである。

これら社会体育施設の臨時休館等については、5月25日に国の緊急事態宣言が全面解除されたことを受けて、体育館は学校の部活動の再開時期に合わせて6月3日から、屋外施設は、6月1日から再開している。再開後は、感染対策を徹底したうえで、施設運用を行っているが、体育館については、利用者数の状況や他市の感染状況などを勘案し、市外在住者の利用を制限している。

続いて、冊子となっている資料へ戻っていただき、8ページをお開きいただきたい。平成27年度から令和元年度までの5年間の当市の各体育施設の利用実績である。令和元年度の利用者数であるが、屋内施設では4体育館合計で、45万2,777人と前年と比較して減少している。減少した要因は、市民体育館のアリーナ床改修・照明改修に伴う3か月間の休室とコロナウイルスの影響により3月に全館臨時休館となったことによるものである。

屋外施設について、都市公園内の少年野球場やテニスコートなどの利用者数であるが、合わせて8万8,648人と前年と比べ、増加している。

森林キャンプ場は、近隣地にてヒグマの出没があり、6月11日から9月19日まで利用休止としたため、令和元年度の利用者数は、3,945人と前年度から大幅に減少している。9ページに移って、あけぼのパークゴルフ場は、民間のパークゴルフ場の閉鎖などの影響もあり、3万3,140人と前年と比べて増加している。

このほか、特設スケートリンクと学校体育施設開放事業の実績は記載のとおりである。最後に、当市のスポーツ施設利用者の総合計は、73万3,405人となり、前年度から約5.5%の減となった。

(質疑等 → なし)

報告事項(3) 令和元年度江別市スポーツ推進計画推進状況について

- ・スポーツ課長から、資料に基づき報告した。

○事務局(スポーツ課長)：

令和元年度江別市スポーツ推進計画推進状況報告書について、説明する。

資料の10ページ、11ページをお開きいただきたい。第6期江別市スポーツ推進計画は、第6次江別市総合計画の個別計画と位置づけ、計画期間を令和元年度から令和5年度までの5年間とし、誰もが健康で心豊かな生活を送ることができる生涯スポーツの実現を目指すために策定した。本計画の推進には、各施策の実施状況や達成状況、効果・課題について、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)の考え方に基づいて、点検・

評価を行い、計画に反映させていくこととしているので、令和元年度における「成果指標」の結果と今後の推進の方向性について、報告する。

資料10ページの「基本目標Ⅰ：生涯スポーツの推進」であるが、令和元年度は、生涯各期におけるスポーツ活動の機会提供と充実として、各種スポーツ教室を開催し、各年齢層別のメニューを提供した。各領域におけるスポーツ活動の充実と関係機関・団体との連携としては、学校開放事業など、スポーツ活動機会の提供を行った。スポーツ教室の受講者数は、前年を上回り、安定した受講者数を確保している。学校開放事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により利用人数は減少しているものの、各団体の登録人数は増加しており、各団体の活動は活発な状態である。週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合は現状値に比べて上昇しており、年代別にみると20代から30代の方のスポーツに親しむ割合が伸びている傾向がある。

今後の方向性について、スポーツ活動に親しむ市民割合の上昇を目指し、今後も、より多くの市民がスポーツ活動に親しむことができるよう、市民ニーズを的確に把握し、関係機関と連携して魅力ある事業の提供に努める。

資料11ページの「基本目標Ⅱ：地域スポーツ活動の推進」であるが、令和元年度は、地域スポーツ活動の活性化のため現スポーツ協会である体育協会やスポーツ少年団の活動に対する支援のほか、軽スポーツの指導・普及を行う軽スポーツの出前事業を実施し、気軽にスポーツに親しめる機会を提供した。各スポーツ団体やスポーツ少年団は少子高齢化の影響がある中、会員数は一定の人数を保っており、それぞれの団体は活発に活動し、全道大会や全国大会でも多くの選手が活躍している。また、競技スポーツの「みる」機会や実技体験の充実として、スポーツ合宿誘致や障がい者スポーツ体験イベント等の開催支援に取り組み、アスリートとの交流や実技体験などの機会を通じて、市内スポーツ活動の活性化を図っている。スポーツ機会が充足していると思う市民割合は、70.4%と現状値を上回っている。年代別で見ると、若年層と中年層の方で充足していると感じている割合が高くなっているが、高年層では他の年代と比べて不足していると感じる割合が高くなっており、そのようなスポーツ活動が活発な世代における機会の充足が課題と言える。

今後の方向性であるが、各団体の活性化のため、スポーツ協会やスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等に対し、指導者育成等の支援や情報提供等の取組を継続して行い、「健康都市えべつ」の実現を図りたい。

次に「基本目標Ⅲ：スポーツ環境の整備・充実」であるが、令和元年度は、市民体育館アリーナの床改修や照明改修工事を行ったほか、東野幌体育館の軒下ボイラー配管漏水修繕など、施設の修繕の環境整備に努めた。市内の屋内体育施設は、建築から30年以上経過したものが多くことから、老朽化対策として、安全に配慮した改修整備を進めており、その結果、スポーツ施設整備の満足度65.5%となり、現状値を上回っている。

今後の方向性であるが、令和2年度も市内体育施設の改修整備を行い、安全で快適に

利用できるスポーツ環境づくりを進めるとともに、指定管理者と連携して利用しやすい施設運営と適切な管理を行う。

(質疑等 → なし)

報告事項(4) 令和2年度スポーツ関係事業計画について

- ・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

○事務局(スポーツ係長)：

まず、12ページに記載したのは、今年度において教育委員会が行う事業である。ここでは前年度から内容変更のあった事業を主に報告する。

表の中段、やや下の3市交流スポーツ大会開催事業は、札幌市厚別区・北広島市・江別市の交流事業であるが、今年度は江別市での開催予定だったが、コロナウイルスの影響により中止となっている。

続いて2行下のはやぶさ運動広場移転事業については、昨年度当審議会において審議していただいた基本構想に基づき、移転先の現況測量を行うものである。

続いて下のスポーツ施設改修整備事業のうち、大麻体育館改修整備事業は、電力会社から体育館に高圧の電気を引き込むためのケーブルや開閉器を更新及び設置する工事で、地中に埋設された電線ケーブルが腐食などによって、漏電を引き起こした際にブレーカーの役割を果たす装置の設置工事を行うものである。

13ページから16ページにかけては、江別市スポーツ振興財団が行う事業である。指定管理事業、受託事業、補助事業について、それぞれ記載のとおりである。なお、当初計画に基づき記載しているが、コロナウイルスの影響により、教室開催事業の年間教室数や自主事業の実施時期等について、変更が生じているものや今後変更が生じる場合があると聞いている。なお、これらの詳細については、スポーツ振興財団の広報紙をお配りする予定なので、参照願いたい。

(質疑等)

○山下委員：

昨年度の決算額と比較して、今年度の決算額の増加や減少の見込みはどうか。

○事務局(スポーツ係長)：

予算ベースで比較すると、今年度の予算要求にあたって、財政部局から一部の経費を除き、全庁的に10%程度の削減が求められたことから、今年度の予算額は昨年度の予算額に比べ、減少傾向にある。また、決算ベースで比較すると、予算額がそもそも減少傾向にあることのほか、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、夏休みプール開放

等が中止となるなど、執行額が減少する傾向にある。一方で、感染症対策等に伴う経費の増加の可能性もあることから、現段階では一概に「減少する」「増加する」とは言えない状況である。

(6) 審議事項

審議事項(1) 江別市スポーツ施設長寿命化計画(素案)について

- ・施設計画担当参事から、資料に基づき説明した。

○事務局(施設計画担当参事)：

江別市スポーツ施設長寿命化計画について、説明する。

右上に別紙と書かれた資料をご覧いただきたい。江別市スポーツ施設長寿命化計画であるが、これは、スポーツ施設の中長期的な維持管理や改築いわゆる建替えについて、方向性を示す計画で、上段から計画の策定根拠や基となる上位計画、考慮する国の計画は記載のとおりである。「対象施設」は、屋内スポーツ施設として、市民体育館、青年センター、大麻体育館、東野幌体育館。屋外スポーツ施設として、市民体育館、あけぼのパークゴルフ場、森林キャンプ場、はやぶさ運動広場である。

計画の「概要」は、①施設整備の基本方針と②施設の長寿命化等の実施計画である。この計画をつくることの「目的と効果」は、①として、これまでの改築中心から、施設を改修し長寿命化することで、施設整備コストの縮減と平準化を図る。②として、長寿命化計画をつくると、施設整備するときに国の有利な財源を使うことができる。「策定時期」は、来年の3月になり、「計画期間」は令和15年度までの計画となる。

裏面の計画の策定スケジュールであるが、縦に時系列、横に教育委員会、スポーツ推進審議会、議会を区分している。これから説明する計画素案について、当会議でいただいたご意見を踏まえものを、10月に定例教育委員会、11月に市議会総務文教常任委員会に報告し、12月には市民意見を募集するパブリックコメントを実施する。その結果を1月に当会議に報告し、定例教育委員会で審議・決定、2月に総務文教常任委員会に報告したいと考えている。

続いて、右上に別冊と書かれた資料、江別市スポーツ施設長寿命化計画の素案をご覧いただきたい。まず、1ページ目から2ページ目にかけて、先ほど説明した計画の「背景・目的」について記載している。2ページから4ページは、関係する市の計画である、第6次江別市総合計画と第6期江別市スポーツ推進計画、江別市公共施設等総合管理計画の関連部分の抜粋を記載している。

4ページ5ページは、スポーツ施設の配置を掲載し、6ページ上段には(2)施設別財産状況として、対象施設の建築年や構造、施設の耐震化の状況、延床面積を記載している。施設は築26年～49年で、青年センターを除き耐震化されている。

7ページ上段をご覧ください。(3)江別市地域防災計画上の位置づけは、はやぶさ運動広場は指定緊急避難場所、他の記載施設は指定避難所及び指定緊急避難場所となっている。その下(4)施設の利用状況であるが、詳細は後ほどご覧いただきたいが、全7施設合計で年間延べ50万人以上の方に利用していただいている。

次の8ページは(5)公園施設でスポーツ施設としての機能を有するものを記載している。北海道の施設として「北海道立野幌総合運動公園」が、本市の施設として「飛鳥山公園」のほか、8施設ある。

9ページの(6)施設の整備費の状況は、過去5年間のスポーツ施設の整備費は、年間2千万円から1億3千万円程度かかっており、耐震改修など大きな改修を行った年度は高額となっている。

そして10ページからが4施設整備の基本的な方針等になる。11ページ上段の図をご覧ください。従来は市民体育館のような鉄筋コンクリートで建てられた建物は、上の改築中心のイメージの図のように40年から50年間使用して改築し、江別市公共施設等総合管理計画でも60年使うことを目標としてきたが、これを下の長寿命化のイメージの図の真ん中にある長寿命化改修を実施することで、建物の延命化を図り、80年以上使おうというのが、計画の基本的な方針である。ただ、老朽化が激しく、長寿命化改修ができなかったり、建物の劣化が激しく長寿命化改修するより改築したほうがよい場合もあるので、11ページから15ページに記載のとおり、建築士により屋内スポーツ施設の劣化調査を行った。

15ページ下段の表をご覧ください。その結果、大麻体育館第2・3体育室と東野幌体育館がB評価で、部分的な劣化が見られる程度であるが、市民体育館と大麻体育館は内部仕上、電気設備、機械設備はC評価で、老朽化が進んでいる。また、青年センターについては、施設の耐震化を行っておらず、屋根屋上、外壁についても劣化が進んでおり、特に研修棟の屋上はD評価で、早急な対応が求められている状況である。

これらの結果から、16ページに記載された方法で、施設の長寿命化改修等の総合評価、優先順位をランク付けすると、17ページ中段に記載しているとおり、大麻体育館のトレーニング室と青年センターは優先順位が高い結果となった。

18ページをご覧ください。これまでの調査結果を踏まえ、③長寿命化の実施計画を示しているが、建物の劣化が進み、継続して使用するには耐震改修も必要な青年センターについては、計画期間中の令和15年度までに改築するものとし、他の施設は80年間以上使用することを目標に、長寿命化改修などを行うこととした。なお、18ページ下段から19ページには、施設を築60年で改築した場合と長寿命化し築80年で改築した場合の試算結果で、長寿命化に取り組んだ方が、建物の建築・改修にかかる費用が安く抑えられることが記載されている。

次の20ページは(3)屋外施設改修の方向付けと実施計画についてである。屋外にあるスポーツ施設についても、土木技術職による劣化調査を実施した。判定基準や結果

は20ページから23ページに記載のとおりである。

22ページから23ページにわたる③長寿命化の実施計画の表をご覧いただきたい。市民体育館、あけぼのパークゴルフ場、森林キャンプ場については、一部に劣化や破損が見られるが、随時修繕しながら、今後も継続して利用する施設として、適正な維持管理に務めたいと考えている。はやぶさ運動広場については、全体的に劣化が進んでおり、近年、宅地開発等による周辺環境の変化、来場者の駐車スペースの不足等の問題があることから、屋外スポーツを実施できる環境を確保するため、昨年度、当審議会で審議していただいた「はやぶさ運動広場移転に係る基本構想」に基づき、都市と農村の交流施設「えみくる」への集約を進めていく。なお、23ページ下段には、④長寿命化対策の実施効果の試算結果で、長寿命化に取り組んだ方が、建物の建築・改修にかかる費用が安く抑えられることが記載されている。

24ページは計画的に建物の改修や整備を進めていくという、長寿命化計画の継続的運用方針を記載している。説明は以上である。

(質疑等)

○小林委員：

市民体育館は災害時における指定の避難所であるが、北海道胆振東部地震の際に、電源がきていない等の理由から、利用できなかった。地震や大雨等の災害が多くなってきている中で、災害時の電源の確保について、どのように考えているのか。

もう1点質問がある。はやぶさ運動広場であるが、劣化して危ない箇所が多くあるため、遊んでいる子どもがいると非常に危険である。劣化して危ない箇所が、現在どのような状況にあるのか把握することや子どもが自由に中に入れるような状況であれば、入れないように封鎖するなど、何かしらの対策が必要だと考える。事務局としてどのように考えているのか、伺いたい。

○事務局（施設計画担当参事）：

災害時における指定避難場所の電源の確保について、災害時はスマホの充電であったり、夜の明かりがないと不安であることから、避難所の役割として、電源の確保は大変重要であると認識している。江別市では防災計画等定めており、危機対策・防災担当の部署において、施設設備の拡充などを進めているので、そういった部署と連携を密にとりながら、災害時においては、市民の方に安心して避難していただけるような施設の管理・運営に取り組んでまいりたいと考えている。

2つ目の質問について、スポーツ施設全般、特に屋外施設に言えることだと思うが、はやぶさ運動広場のように、職員が常駐していない施設は、普段からパトロールを実施し、危険な箇所がないか適宜点検するなど、現在の状況を把握し、適正に維持管理することは大変重要であるとする。また、大人が見ていないときに危険な場所で、子ども

だけで遊んでいることはあってはならないので、職員が常駐していない施設については、危険な箇所がないか適宜点検し、子どもが入ったら危ないような場所については、子どもが入ることがないように封鎖するなど、事前の防止策を施しながら、適正な施設の管理・運営に今後も努めていきたいと考えている。

○花井副会長：

長寿命化計画の中で、青年センターは令和15年度までに改築し、その他の施設は、長寿命化改修をしながら、長く使っていくということは理解した。どの施設も同じぐらいの築年数で、建築物の改築時期を80年へ延長することで、多くの施設が改築時期に重なってしまい、財政的な負担があると思うが、改築時期のイメージがあれば、教えていただきたい。

○事務局（施設計画担当参事）：

江別市のスポーツ施設、他の社会教育施設にも言えることであるが、建築年が同じぐらいの時期に建築されており、建物の建替えの時期については、同じ時期に重なってしまう。江別市のみならず、高度成長期に建築された施設が数多く残っており、現在更新時期を迎えようとしている。そういった状況の中で、一度に全ての施設を建て替えることは、現在の財政状況だととても難しいことであり、ほぼ不可能に近いと考えている。長寿命化という考え方が出てきたのは、そのような背景がある。長寿命化改修を行うことで、施設の延命化を図り、更新時期をばらけさせることで、施設の機能を維持するためのコストの平準化を図るといった考え方で、この計画を策定するように国の方から通知が来ている。我々も特定の時期に施設の更新コストが偏らないように、長寿命化改修などを目標としながら、将来、安定して継続的に市民のスポーツの機会を確保・提供できるように、施設整備を進めてまいりたいと考えている。

(7) その他

○事務局（スポーツ係長）：

次回の審議会の開催は、1月頃を予定している。

○議長（金内会長）：

以上をもって、令和2年度第1回江別市スポーツ推進審議会を閉会する。

(8) 閉 会

午後4時00分 終了